

表 4. 性別にみた傷病保有者数および保有率

疾病分類 (ICD-10)	男性		女性		総数	
	人数 (人)	保有率 (%)	人数 (人)	保有率 (%)	人数 (人)	保有率 (%)
合 計	7,430	100.00	12,930	100.00	20,360	100.00
1 感染症及び寄生虫症	262	3.5	316	2.4	578	2.8
2 新生物	774	10.4	590	4.6	1,364	6.7
再掲) 胃の悪性新生物	122	1.6	79	0.6	201	1.0
再掲) 結腸の悪性新生物	82	1.1	76	0.6	158	0.8
再掲) 肺の悪性新生物	103	1.4	56	0.4	159	0.8
3 血液・造血器疾患/免疫機構障害	30	0.4	58	0.4	88	0.4
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	1,077	14.5	2,269	17.5	3,346	16.4
再掲) 甲状腺障害	28	0.4	168	1.3	196	1.0
再掲) 糖尿病	783	10.5	928	7.2	1,711	8.4
再掲) その他	270	3.6	1,192	9.2	1,462	7.2
5 精神及び行動障害	399	5.4	913	7.1	1,312	6.4
再掲) 血管性認知症	48	0.6	183	1.4	231	1.1
再掲) 感情障害	142	1.9	387	3.0	529	2.6
6 神経系疾患	196	2.6	326	2.5	522	2.6
再掲) パーキンソン病	66	0.9	129	1.0	195	1.0
再掲) アルツハイマー病	15	0.2	35	0.3	50	0.2
7 眼及び付属器疾患	1,350	18.2	2,694	20.8	4,044	19.9
再掲) 白内障	601	8.1	1,208	9.3	1,809	8.9
8 耳及び付属器疾患	156	2.1	259	2.0	415	2.0
9 循環器疾患	3,950	53.2	6,833	52.8	10,783	53.0
再掲) 高血圧性疾患	1,752	23.6	3,823	29.6	5,575	27.4
再掲) 虚血性心疾患	799	10.8	1,073	8.3	1,872	9.2
再掲) 脳内出血	100	1.3	113	0.9	213	1.0
再掲) 脳梗塞	850	11.4	1,160	9.0	2,010	9.9
10 呼吸器疾患	722	9.7	711	5.5	1,433	7.0
再掲) 肺炎	49	0.7	44	0.3	93	0.5
再掲) 急性気管支炎	23	0.3	48	0.4	71	0.3
再掲) COPD	141	1.9	85	0.7	226	1.1
再掲) 喘息	220	3.0	242	1.9	462	2.3
11 消化器疾患	862	11.6	1,311	10.1	2,173	10.7
再掲) 胃潰瘍・十二指腸潰瘍	267	3.6	296	2.3	563	2.8
再掲) 胃炎・十二指腸炎	287	3.9	639	4.9	926	4.5
12 皮膚及び皮下組織の疾患	453	6.1	607	4.7	1,060	5.2
再掲) 皮膚炎	326	4.4	391	3.0	717	3.5
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,338	18.0	3,285	25.4	4,623	22.7
再掲) 関節症	322	4.3	980	7.6	1,302	6.4
再掲) 脊椎障害	464	6.2	697	5.4	1,161	5.7
再掲) 骨密度障害	55	0.7	844	6.5	899	4.4
14 尿路性器系疾患	739	9.9	420	3.2	1,159	5.7
再掲) 腎不全	93	1.3	83	0.6	176	0.9
再掲) 前立腺肥大	505	6.8	0	0.0	505	2.5
19 損傷・中毒/他の外因の影響	212	2.9	498	3.9	710	3.5
再掲) 骨折	80	1.1	323	2.5	403	2.0

表 5. 年齢階級別にみた傷病保有率

単位：(%)

疾病分類 (ICD-10)	年齢階級						
	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-94	95≤
人数(人)	340	3,242	7,102	5,105	2,781	1,382	408
1 感染症及び寄生虫症	5.6	3.3	3.1	2.7	1.9	2.2	2.7
2 新生物	7.4	7.6	7.4	7.2	5.5	2.8	1.2
再掲) 胃の悪性新生物	0.6	1.2	1.1	1.0	0.8	0.6	0.0
再掲) 結腸の悪性新生物	1.5	0.6	1.1	0.6	0.7	0.4	0.2
再掲) 肺の悪性新生物	0.0	0.8	0.9	0.8	0.7	0.5	0.2
3 血液・造血器疾患／免疫機構障害	0.0	0.5	0.5	0.5	0.3	0.1	0.7
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	16.2	20.1	18.5	15.8	13.3	9.0	6.4
再掲) 甲状腺障害	0.0	1.2	1.1	0.9	0.7	0.9	1.0
再掲) 糖尿病	12.9	9.8	9.6	7.7	7.1	4.3	3.7
再掲) その他	3.5	9.2	8.0	7.3	5.5	3.8	1.7
5 精神及び行動障害	13.2	6.5	5.7	6.1	7.4	7.7	7.1
再掲) 血管性認知症	0.3	0.3	0.3	1.1	2.6	3.5	4.4
再掲) 感情障害	3.5	3.0	3.1	2.4	2.2	1.2	0.7
6 神経系疾患	8.8	2.7	2.8	2.4	2.1	1.9	0.5
再掲) パーキンソン病	1.2	0.8	1.1	1.1	0.7	0.9	0.0
再掲) アルツハイマー病	0.0	0.1	0.2	0.4	0.4	0.2	0.0
7 眼及び付属器疾患	8.2	19.9	22.1	21.3	17.9	13.1	8.8
再掲) 白内障	3.8	8.8	10.1	9.7	7.5	5.4	2.7
8 耳及び付属器疾患	3.2	2.4	2.4	1.9	1.4	1.5	0.7
9 循環器疾患	42.4	47.2	51.4	53.2	57.7	63.2	65.7
再掲) 高血圧性疾患	7.1	27.0	28.5	27.2	26.2	29.2	30.9
再掲) 虚血性心疾患	6.8	6.9	8.9	9.9	10.9	10.6	9.8
再掲) 脳内出血	7.9	1.4	0.9	0.7	0.8	1.4	0.0
再掲) 脳梗塞	10.3	7.1	8.3	10.4	12.8	15.1	15.9
10 呼吸器疾患	7.4	8.4	7.0	7.0	6.7	5.1	5.4
再掲) 肺炎	0.3	0.2	0.4	0.3	0.8	0.7	2.0
再掲) 急性気管支炎	0.0	0.5	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2
再掲) COPD	0.6	0.7	0.9	1.4	1.5	1.5	1.0
再掲) 喘息	2.6	2.7	2.3	2.5	1.9	1.4	1.5
11 消化器疾患	9.4	10.8	11.2	10.8	10.7	8.0	9.3
再掲) 胃潰瘍・十二指腸潰瘍	3.2	2.9	2.9	2.9	2.6	2.0	1.2
再掲) 胃炎・十二指腸炎	2.4	4.4	4.8	4.4	4.9	3.8	4.4
12 皮膚及び皮下組織の疾患	6.5	5.5	5.7	4.8	4.6	4.2	7.6
再掲) 皮膚炎	4.4	3.9	3.8	3.4	3.2	2.2	3.7
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	13.8	22.3	24.9	24.4	19.5	17.1	15.0
再掲) 関節症	1.8	6.3	7.1	6.8	5.4	4.8	5.1
再掲) 脊椎障害	2.9	6.0	6.3	6.3	4.6	3.5	3.4
再掲) 骨密度障害	1.5	3.5	4.5	4.9	4.8	4.7	3.4
14 尿路性器系疾患	13.8	5.9	5.9	5.7	4.7	4.1	5.4
再掲) 腎不全	8.5	1.4	0.6	0.7	0.4	0.4	1.2
再掲) 前立腺肥大	1.8	2.2	3.0	2.7	1.8	1.5	1.2
19 損傷・中毒／他の外因の影響	4.4	2.8	3.2	3.6	4.3	4.1	4.4
再掲) 骨折	1.2	1.3	1.6	2.1	2.9	2.9	3.4

表 6. 要介護度別にみた傷病保有率

単位：(%)

疾病分類(ICD-10)	要介護度						
	非該当	要支援	要介護				
			1	2	3	4	5
人数(人)	15,559	908	1,533	707	528	543	582
1 感染症及び寄生虫症	2.9	3.3	2.4	3.3	2.8	3.9	1.0
2 新生物	7.1	7.4	6.0	5.4	4.0	3.7	2.9
再掲) 胃の悪性新生物	1.1	1.0	0.6	0.4	1.1	0.7	0.3
再掲) 結腸の悪性新生物	0.8	1.1	0.8	0.8	0.2	0.6	0.3
再掲) 肺の悪性新生物	0.8	0.4	0.7	0.8	0.4	0.2	0.5
3 血液・造血器疾患/免疫機構障害	0.4	0.6	0.3	0.7	0.2	0.6	0.3
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	17.9	15.6	13.3	11.5	11.7	7.6	4.3
再掲) 甲状腺障害	1.0	1.1	0.7	1.1	0.8	0.2	0.2
再掲) 糖尿病	8.8	9.4	7.2	6.4	9.7	6.1	2.6
再掲) その他	8.2	5.3	5.4	4.1	1.5	1.3	1.5
5 精神及び行動障害	4.5	7.7	11.0	16.7	15.2	16.9	14.9
再掲) 血管性認知症	0.3	0.7	1.5	4.1	6.3	8.3	8.9
再掲) 感情障害	2.2	4.5	4.6	5.2	2.5	2.2	1.5
6 神経系疾患	1.8	2.2	4.0	4.7	5.7	8.5	8.2
再掲) パーキンソン病	0.5	0.4	1.9	1.8	3.2	5.0	4.5
再掲) アルツハイマー病	0.1	0.1	0.4	0.6	1.3	0.9	1.4
7 眼及び付属器疾患	21.7	23.3	18.6	10.5	7.4	7.0	3.3
再掲) 白内障	9.8	9.5	8.4	5.4	2.5	2.6	0.9
8 耳及び付属器疾患	2.2	2.5	2.2	1.7	0.8	0.4	0.5
9 循環器疾患	52.5	56.2	54.3	51.1	54.4	53.2	58.1
再掲) 高血圧性疾患	29.9	28.9	22.9	16.0	15.2	10.7	9.3
再掲) 虚血性心疾患	9.4	9.7	10.0	7.9	8.0	7.4	4.5
再掲) 脳内出血	0.6	0.6	1.6	2.8	3.2	3.5	5.8
再掲) 脳梗塞	7.3	10.9	14.6	18.1	21.6	23.8	32.1
10 呼吸器疾患	7.1	6.7	6.8	7.1	7.0	5.7	8.1
再掲) 肺炎	0.3	0.0	0.7	0.6	1.1	1.1	2.4
再掲) 急性気管支炎	0.3	0.3	0.4	0.3	0.2	0.2	1.2
再掲) COPD	1.0	1.4	1.2	1.7	1.7	1.3	1.4
再掲) 喘息	2.3	2.1	2.2	2.5	2.3	1.8	1.2
11 消化器疾患	11.1	10.7	9.3	8.1	8.1	7.6	10.3
再掲) 胃潰瘍・十二指腸潰瘍	3.0	2.9	1.9	1.6	2.3	0.9	2.6
再掲) 胃炎・十二指腸炎	4.8	4.6	3.8	3.8	3.0	3.3	3.1
12 皮膚及び皮下組織の疾患	5.0	5.2	5.7	4.1	5.9	5.7	10.0
再掲) 皮膚炎	3.5	2.9	3.5	2.5	3.4	4.2	5.0
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	24.0	28.1	25.5	15.3	11.9	7.6	5.0
再掲) 関節症	6.8	8.7	7.5	3.5	2.7	1.1	1.0
再掲) 脊椎障害	6.2	6.5	6.0	3.1	1.9	1.7	0.7
再掲) 骨密度障害	4.6	6.6	5.3	3.3	2.5	1.1	1.0
14 尿路性器系疾患	5.5	6.6	5.9	6.1	8.1	6.1	6.2
再掲) 腎不全	0.7	0.8	1.8	1.7	2.5	1.5	0.7
再掲) 前立腺肥大	2.7	2.4	1.4	1.8	2.5	1.7	0.2
19 損傷・中毒/他の外因の影響	3.0	4.7	5.0	6.5	5.1	6.1	2.9
再掲) 骨折	1.5	3.5	3.2	5.2	3.6	4.4	1.4

### 3) 患者特性別にみた傷病保有状況（傷病中分類ベース）

#### (1) 患者特性別にみた傷病保有率

患者特性（性、年齢階級、要介護度）別にみた傷病保有率（傷病中分類ベース）を、表7～8に示す。

まず、性別傷病保有率をみる。

男性では、第1位「高血圧性疾患」（23.6%）、第2位「脳梗塞」（11.4%）、第3位「虚血性心疾患」（10.8%）、第4位「糖尿病」（10.5%）、第5位「その他眼の疾患」（8.2%）、女性では、第1位「高血圧性疾患」（29.6%）、第2位「白内障」（9.3%）、第3位「その他内分泌・代謝疾患」（9.2%）、第4位「その他眼の疾患」（9.2%）、第5位「脳梗塞」（9.0%）であった。性別を問わず、「高血圧性疾患」が最も多く、20%以上が保有していた。性差をみると、男性では「循環器疾患」が上位3位を占めたのに対し、女性では、「その他内分泌・代謝疾患」や「関節症」が上位にあった。

次に、年齢階級別傷病保有率を、保有率が高い傷病についてみる。

まず、「高血圧性疾患」をみると、70歳以上ではいずれの年齢階級でも保有率1位と高かった。「糖尿病」は65-69歳で1位、70-74歳で2位と前期高齢者で高位にあり、「脳梗塞」「虚血性心疾患」は80歳以上で2位、3位にあった。「白内障」「その他眼の疾患」は70歳以上のいずれの年齢階級でも上位にあった。

次に、要介護度別傷病保有率を、保有率が高い傷病についてみる。

まず、「高血圧性疾患」をみると、非該当～要支援では、男女とも保有率1位であるが、要介護度が重度になる程減少するのに対し、「脳梗塞」は要介護度が重度になる程増加していた。「白内障」「関節症」は非該当～要介護1の軽度要介護者で上位にあり、「血管性認知症」は要介護2～5の重度要介護者で上位にあった。

#### (2) 患者特性別にみた傷病保有数分布

患者特性（性、年齢階級、要介護度）別にみた傷病保有数分布（傷病中分類ベース）を、表9～10に示す。

まず、性別傷病保有数をみる。

男性では、保有数「1」（50.8%）、保有数「2」（30.0%）、保有数「3」（13.3%）、女性では、保有数「1」（52.8%）、保有数「2」（31.1%）、保有数「3」（11.7%）であった。平均保有数は、男性1.77、女性1.69と、男性のほうがやや多かった。

次に、年齢階級別傷病保有数をみる。

平均保有数は、「65-69歳」1.65、「70-74歳」1.73、「75-79歳」1.79、「80-84歳」1.75、「85歳以上」1.57と、「75-79歳」をピークに年齢とともに減少する傾向にあった。

次に、要介護度別傷病保有数をみる。

平均保有数は、「非該当」1.74、「要支援」1.89、「要介護1」1.79、「要介護2」1.57、「要介護3」1.55、「要介護4」1.46、「要介護5」1.39と、「要支援」をピークに要介護度が重度になる程減少する傾向にあった。

表 7. 性別要介護度別にみた傷病保有率(上位 10 項目)

ア) 非該当 (N=15,559)								
合計 (n=15,559)		男性 (n=6,081)		女性 (n=9,478)				
	(%)		(%)		(%)			
1	高血圧性疾患	29.9	1	高血圧性疾患	26.1	1	高血圧性疾患	32.4
2	白内障	9.8	2	虚血性心疾患	11.2	2	その他内分泌・代謝疾患	11.0
3	その他眼の疾患	9.6	3	糖尿病	10.9	3	白内障	10.6
4	虚血性心疾患	9.4	4	その他眼の疾患	8.8	4	その他眼の疾患	10.2
5	糖尿病	8.8	5	白内障	8.6	5	虚血性心疾患	8.3
6	その他内分泌・代謝疾患	8.2	6	脳梗塞	8.5	6	関節症	8.2
7	脳梗塞	7.3	7	前立腺肥大	7.0	7	糖尿病	7.4
8	関節症	6.8	8	脊椎障害	6.7	8	骨密度障害	7.1
9	脊椎障害	6.2	9	その他心疾患	6.5	9	脳梗塞	6.5
10	その他心疾患	5.6	10	関節症	4.7	10	脊椎障害	5.9

イ) 要支援 (N=908)								
合計 (n=908)		男性 (n=201)		女性 (n=707)				
	(%)		(%)		(%)			
1	高血圧性疾患	28.9	1	高血圧性疾患	18.9	1	高血圧性疾患	31.7
2	その他眼の疾患	11.5	2	脳梗塞	18.4	2	その他眼の疾患	11.5
3	脳梗塞	10.9	3	その他眼の疾患	11.4	3	関節症	9.5
4	虚血性心疾患	9.7	3	虚血性心疾患	11.4	4	虚血性心疾患	9.2
5	白内障	9.5	5	糖尿病	10.9	5	白内障	9.1
6	糖尿病	9.4	5	白内障	10.9	6	糖尿病	8.9
7	関節症	8.7	5	前立腺肥大	10.9	7	脳梗塞	8.8
8	その他心疾患	7.2	8	その他心疾患	8.0	8	骨密度障害	8.2
9	骨密度障害	6.6	9	その他悪性新生物	7.5	9	その他心疾患	6.9
10	脊椎障害	6.5	10	関節症	6.0	10	脊椎障害	6.6
			10	脊椎障害	6.0			

ウ) 要介護 1 (N=1,533)								
合計 (n=1,533)		男性 (n=418)		女性 (n=1,115)				
	(%)		(%)		(%)			
1	高血圧性疾患	22.9	1	脳梗塞	22.0	1	高血圧性疾患	24.7
2	脳梗塞	14.6	2	高血圧性疾患	18.2	2	脳梗塞	11.8
3	虚血性心疾患	10.0	3	虚血性心疾患	10.3	3	虚血性心疾患	9.9
4	白内障	8.4	4	糖尿病	8.4	4	白内障	8.7
5	その他眼の疾患	8.2	5	白内障	7.7	5	その他眼の疾患	8.5
6	関節症	7.5	6	その他眼の疾患	7.2	5	関節症	8.5
7	糖尿病	7.2	7	脊椎障害	6.0	7	糖尿病	6.8
8	脊椎障害	6.0	8	前立腺肥大	5.3	8	その他心疾患	6.5
9	その他心疾患	5.9	9	関節症	4.8	8	骨密度障害	6.5
10	その他内分泌・代謝疾患	5.4	10	その他悪性新生物	4.5	10	その他内分泌・代謝疾患	6.2

エ)要介護 2(N=707)

合計 (n=707)		男性 (n=238)		女性 (n=469)	
	(%)		(%)		(%)
1 脳梗塞	18.1	1 脳梗塞	25.6	1 高血圧性疾患	19.4
2 高血圧性疾患	16.0	2 高血圧性疾患	9.2	2 脳梗塞	14.3
3 虚血性心疾患	7.9	2 虚血性心疾患	9.2	3 虚血性心疾患	7.2
4 その他心疾患	7.4	4 糖尿病	8.4	3 その他心疾患	7.2
5 糖尿病	6.4	5 その他心疾患	7.6	5 骨折	7.0
6 その他精神および行動障害	5.5	6 その他悪性新生物	5.9	6 感情障害	6.2
7 白内障	5.4	6 その他精神および行動障害	5.9	7 白内障	5.5
8 感情障害	5.2	8 その他内分泌・代謝疾患	5.5	8 糖尿病	5.3
8 骨折	5.2	8 前立腺肥大	5.5	8 その他精神および行動障害	5.3
10 その他内分泌・代謝疾患	4.1	10 白内障	5.0	10 血管性認知症	4.7
10 血管性認知症	4.1			10 関節症	4.7

オ)要介護 3(N=528)

合計 (n=528)		男性 (n=175)		女性 (n=353)	
	(%)		(%)		(%)
1 脳梗塞	21.6	1 脳梗塞	26.9	1 脳梗塞	19.0
2 高血圧性疾患	15.2	2 糖尿病	14.3	2 高血圧性疾患	17.3
3 糖尿病	9.7	3 高血圧性疾患	10.9	3 その他心疾患	9.6
4 その他心疾患	9.1	4 虚血性心疾患	8.0	4 虚血性心疾患	7.9
5 虚血性心疾患	8.0	4 その他心疾患	8.0	5 糖尿病	7.4
6 血管性認知症	6.3	6 前立腺肥大	7.4	5 血管性認知症	7.4
7 その他精神および行動障害	5.7	7 その他眼の疾患	5.1	7 その他精神および行動障害	6.5
8 その他眼の疾患	4.0	8 血管性認知症	4.0	8 骨折	4.5
9 骨折	3.6	8 その他精神および行動障害	4.0	9 関節症	3.7
10 皮膚炎	3.4	8 パーキンソン病	4.0	10 その他眼の疾患	3.4
		8 その他皮膚疾患	4.0	10 脳内出血	3.4
		8 腎不全	4.0	10 皮膚炎	3.4
				10 骨密度障害	3.4

カ)要介護 4(N=543)

合計 (n=543)		男性 (n=151)		女性 (n=392)	
	(%)		(%)		(%)
1 脳梗塞	23.8	1 脳梗塞	30.5	1 脳梗塞	21.2
2 高血圧性疾患	10.7	2 その他心疾患	8.6	2 高血圧性疾患	12.8
3 その他心疾患	8.8	3 糖尿病	6.6	3 血管性認知症	9.9
4 血管性認知症	8.3	4 皮膚炎	6.0	4 その他心疾患	8.9
5 虚血性心疾患	7.4	4 前立腺肥大	6.0	5 虚血性心疾患	8.4
6 糖尿病	6.1	6 高血圧性疾患	5.3	6 糖尿病	5.9
7 その他精神および行動障害	5.0	6 脳内出血	5.3	7 パーキンソン病	5.4
7 パーキンソン病	5.0	6 骨折	5.3	8 その他精神および行動障害	5.1
9 骨折	4.4	9 その他精神および行動障害	4.6	9 骨折	4.1
10 皮膚炎	4.2	9 虚血性心疾患	4.6	10 胃炎・十二指腸炎	3.6
				10 その他消化器系疾患	3.6
				10 皮膚炎	3.6

キ)要介護 5(N=528)

合計 (n=582)		(%)	男性 (n=166)		(%)	女性 (n=416)		(%)
1	脳梗塞	32.1	1	脳梗塞	31.3	1	脳梗塞	32.5
2	高血圧性疾患	9.3	2	血管性認知症	7.2	2	高血圧性疾患	12.0
3	血管性認知症	8.9	3	皮膚炎	6.6	3	血管性認知症	9.6
4	脳内出血	5.8	4	脳内出血	6.0	4	脳内出血	5.8
5	皮膚炎	5.0	5	パーキンソン病	5.4	5	その他尿路系疾患	4.8
5	その他尿路系疾患	5.0	5	その他尿路系疾患	5.4	6	虚血性心疾患	4.6
7	パーキンソン病	4.5	7	その他消化器系疾患	4.8	6	その他心疾患	4.6
7	虚血性心疾患	4.5	8	虚血性心疾患	4.2	6	その他皮膚疾患	4.6
9	その他心疾患	4.3	8	肺炎	4.2	9	皮膚炎	4.3
10	その他皮膚疾患	4.1	8	胃炎・十二指腸炎	4.2	10	パーキンソン病	4.1

ク)総数(N=20,360)

合計 (n=20,360)		(%)	男性 (n=7,430)		(%)	女性 (n=12,930)		(%)
1	高血圧性疾患	27.4	1	高血圧性疾患	23.6	1	高血圧性疾患	29.6
2	脳梗塞	9.9	2	脳梗塞	11.4	2	白内障	9.3
3	虚血性心疾患	9.2	3	虚血性心疾患	10.8	3	その他内分泌・代謝疾患	9.2
4	白内障	8.9	4	糖尿病	10.5	4	その他眼の疾患	9.2
5	その他眼の疾患	8.8	5	その他眼の疾患	8.2	5	脳梗塞	9.0
6	糖尿病	8.4	6	白内障	8.1	6	虚血性心疾患	8.3
7	その他内分泌・代謝疾患	7.2	7	前立腺肥大	6.8	7	関節症	7.6
8	関節症	6.4	8	その他心疾患	6.5	8	糖尿病	7.2
9	その他心疾患	5.9	9	脊椎障害	6.2	9	骨密度障害	6.5
10	脊椎障害	5.7	10	皮膚炎	4.4	10	その他心疾患	5.6

表 8. 性別年齢階級別にみた傷病保有率(上位 10 項目)

ア) 65-69 歳 (N=340)								
合計 (n=340)		(%)	男性 (n=186)		(%)	女性 (n=154)		(%)
1	糖尿病	12.9	1	糖尿病	15.6	1	その他心疾患	12.3
2	その他心疾患	10.3	2	脳梗塞	12.9	2	糖尿病	9.7
2	脳梗塞	10.3	3	その他心疾患	8.6	3	腎不全	9.1
4	腎不全	8.5	3	脳内出血	8.6	4	脳内出血	7.1
5	脳内出血	7.9	5	統合失調症	8.1	4	脳梗塞	7.1
6	高血圧性疾患	7.1	5	高血圧性疾患	8.1	6	その他内分泌・代謝疾患	5.8
7	統合失調症	6.8	5	腎不全	8.1	6	高血圧性疾患	5.8
7	虚血性心疾患	6.8	8	虚血性心疾患	7.5	6	虚血性心疾患	5.8
9	てんかん	4.4	9	てんかん	5.9	6	炎症性多発性関節障害	5.8
9	皮膚炎	4.4	10	皮膚炎	4.8	10	統合失調症	5.2

イ) 70-74 歳 (N=3,242)								
合計 (n=3,242)		(%)	男性 (n=1,375)		(%)	女性 (n=1,867)		(%)
1	高血圧性疾患	27.0	1	高血圧性疾患	24.8	1	高血圧性疾患	28.6
2	糖尿病	9.8	2	糖尿病	12.7	2	その他内分泌・代謝疾患	12.2
3	その他内分泌・代謝疾患	9.2	3	脳梗塞	8.7	3	白内障	10.4
4	白内障	8.8	4	その他眼の疾患	8.1	4	その他眼の疾患	8.7
5	その他眼の疾患	8.5	4	虚血性心疾患	8.1	5	関節症	8.1
6	脳梗塞	7.1	6	白内障	6.6	6	糖尿病	7.7
7	虚血性心疾患	6.9	7	その他心疾患	5.5	7	脊椎障害	6.4
8	関節症	6.3	7	脊椎障害	5.5	8	骨密度障害	6.1
9	脊椎障害	6.0	9	前立腺肥大	5.2	9	虚血性心疾患	6.0
10	その他心疾患	5.0	10	その他内分泌・代謝疾患	5.1	10	脳梗塞	5.8

ウ) 75-79 歳 (N=7,102)								
合計 (n=7,102)		(%)	男性 (n=2,868)		(%)	女性 (n=4,234)		(%)
1	高血圧性疾患	28.5	1	高血圧性疾患	24.3	1	高血圧性疾患	31.3
2	白内障	10.1	2	糖尿病	12.3	2	白内障	11.5
3	その他眼の疾患	9.9	3	虚血性心疾患	11.0	3	その他内分泌・代謝疾患	10.9
4	糖尿病	9.6	4	脳梗塞	10.1	3	その他眼の疾患	10.9
5	虚血性心疾患	8.9	5	その他眼の疾患	8.3	5	関節症	8.8
6	脳梗塞	8.3	6	白内障	8.2	6	糖尿病	7.8
7	その他内分泌・代謝疾患	8.0	7	前立腺肥大	7.4	7	虚血性心疾患	7.5
8	関節症	7.1	8	脊椎障害	6.9	8	骨密度障害	7.1
9	脊椎障害	6.3	9	その他心疾患	6.3	9	脳梗塞	7.0
10	その他心疾患	5.2	10	関節症	4.6	10	脊椎障害	5.8



## エ)80-84 歳 (N=5,105)

合計 (n=5,105)		男性 (n=1,812)		女性 (n=3,293)	
	(%)		(%)		(%)
1 高血圧性疾患	27.2	1 高血圧性疾患	24.5	1 高血圧性疾患	28.8
2 脳梗塞	10.4	2 脳梗塞	12.9	2 その他眼の疾患	9.9
3 虚血性心疾患	9.9	3 虚血性心疾患	10.9	3 その他内分泌・代謝疾患	9.7
4 白内障	9.7	4 白内障	10.0	4 白内障	9.6
5 その他眼の疾患	9.4	5 その他眼の疾患	8.5	5 虚血性心疾患	9.3
6 糖尿病	7.7	6 糖尿病	8.1	6 脳梗塞	9.0
7 その他内分泌・代謝疾患	7.3	7 前立腺肥大	7.7	7 関節症	7.8
8 関節症	6.8	8 脊椎障害	6.8	8 糖尿病	7.4
9 脊椎障害	6.3	9 その他心疾患	6.1	9 骨密度障害	7.0
10 その他心疾患	5.6	10 その他悪性新生物	5.3	10 脊椎障害	6.0

## オ)85 歳以上 (N=4,571)

合計 (n=4,571)		男性 (n=1,189)		女性 (n=3,382)	
	(%)		(%)		(%)
1 高血圧性疾患	27.6	1 高血圧性疾患	21.4	1 高血圧性疾患	29.7
2 脳梗塞	13.8	2 脳梗塞	15.4	2 脳梗塞	13.2
3 虚血性心疾患	10.7	3 虚血性心疾患	13.4	3 虚血性心疾患	9.8
4 その他心疾患	7.6	4 その他眼の疾患	8.4	4 その他心疾患	7.4
5 その他眼の疾患	7.3	5 その他心疾患	8.2	5 その他眼の疾患	6.9
6 白内障	6.4	6 白内障	7.3	6 白内障	6.1
7 糖尿病	6.0	7 糖尿病	6.7	7 骨密度障害	5.7
8 関節症	5.2	8 前立腺肥大	6.4	8 糖尿病	5.7
9 その他内分泌・代謝疾患	4.7	9 脊椎障害	5.3	9 関節症	5.6
10 骨密度障害	4.6	10 胃炎・十二指腸炎	4.2	10 その他内分泌・代謝疾患	5.2

## カ)総数 (N=20,360)

合計 (n=20,360)		男性 (n=7,430)		女性 (n=12,930)	
	(%)		(%)		(%)
1 高血圧性疾患	27.4	1 高血圧性疾患	23.6	1 高血圧性疾患	29.6
2 脳梗塞	9.9	2 脳梗塞	11.4	2 白内障	9.3
3 虚血性心疾患	9.2	3 虚血性心疾患	10.8	3 その他内分泌・代謝疾患	9.2
4 白内障	8.9	4 糖尿病	10.5	4 その他眼の疾患	9.2
5 その他眼の疾患	8.8	5 その他眼の疾患	8.2	5 脳梗塞	9.0
6 糖尿病	8.4	6 白内障	8.1	6 虚血性心疾患	8.3
7 その他内分泌・代謝疾患	7.2	7 前立腺肥大	6.8	7 関節症	7.6
8 関節症	6.4	8 その他心疾患	6.5	8 糖尿病	7.2
9 その他心疾患	5.9	9 脊椎障害	6.2	9 骨密度障害	6.5
10 脊椎障害	5.7	10 皮膚炎	4.4	10 その他心疾患	5.6

表 9. 性別要介護度別にみた傷病保有数分布

	要介護度	人数 (人)	構成割合(%)								平均値	標準偏差
			1	2	3	4	5	6	7	8		
男性	非該当	6,081	50.3	30.3	13.4	4.3	1.2	0.4	0.1	0.0	1.77	0.98
	要支援	201	38.8	34.3	15.4	6.5	4.0	0.5	0.5	0.0	2.06	1.17
	要介護 1	418	48.6	29.7	14.1	4.8	1.9	0.7	0.2	0.0	1.85	1.07
	要介護 2	238	53.8	30.3	13.0	2.1	0.8	0.0	0.0	0.0	1.66	0.85
	要介護 3	175	55.4	26.9	13.1	4.0	0.0	0.0	0.6	0.0	1.69	0.95
	要介護 4	151	63.6	23.2	9.3	3.3	0.0	0.7	0.0	0.0	1.55	0.88
	要介護 5	166	68.7	21.1	8.4	1.2	0.6	0.0	0.0	0.0	1.44	0.75
	小計	7,430	50.8	30.0	13.3	4.2	1.2	0.4	0.1	0.0	1.77	0.98
女性	非該当	9,478	51.5	31.7	12.3	3.4	0.8	0.2	0.1	0.0	1.71	0.91
	要支援	707	45.3	33.8	14.0	5.2	1.3	0.4	0.0	0.0	1.85	0.98
	要介護 1	1,115	50.9	30.4	13.2	3.3	1.5	0.4	0.3	0.1	1.77	1.01
	要介護 2	469	62.3	26.2	8.5	2.3	0.6	0.0	0.0	0.0	1.53	0.80
	要介護 3	353	61.2	31.7	6.2	0.3	0.3	0.3	0.0	0.0	1.48	0.70
	要介護 4	392	67.3	25.3	5.1	1.8	0.5	0.0	0.0	0.0	1.43	0.72
	要介護 5	416	69.7	25.2	3.6	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	1.37	0.65
	小計	12,930	52.8	31.1	11.7	3.3	0.9	0.2	0.1	0.0	1.69	0.90
総数	非該当	15,559	51.0	31.1	12.8	3.8	1.0	0.3	0.1	0.0	1.74	0.94
	要支援	908	43.8	33.9	14.3	5.5	1.9	0.4	0.1	0.0	1.89	1.03
	要介護 1	1,533	50.2	30.2	13.4	3.7	1.6	0.5	0.3	0.1	1.79	1.03
	要介護 2	707	59.4	27.6	10.0	2.3	0.7	0.0	0.0	0.0	1.57	0.82
	要介護 3	528	59.3	30.1	8.5	1.5	0.2	0.2	0.2	0.0	1.55	0.79
	要介護 4	543	66.3	24.7	6.3	2.2	0.4	0.2	0.0	0.0	1.46	0.77
	要介護 5	582	69.4	24.1	5.0	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	1.39	0.68
	合計	20,360	52.1	30.7	12.3	3.6	1.0	0.3	0.1	0.0	1.72	0.93

表 10. 性別年齢階級別にみた傷病保有数分布

	年齢階級	人数 (人)	構成割合(%)								平均値	標準偏差
			1	2	3	4	5	6	7	8		
男性	65-69	186	53.2	33.9	8.6	3.8	0.0	0.5	0.0	0.0	1.65	0.86
	70-74	1,375	51.9	31.3	11.6	3.9	0.6	0.5	0.1	0.0	1.72	0.94
	75-79	2,868	50.5	28.6	14.7	4.4	1.3	0.5	0.1	0.0	1.79	1.00
	80-84	1,812	49.2	29.6	13.6	5.2	1.9	0.2	0.2	0.1	1.82	1.04
	85≤	1,189	52.1	31.6	11.9	3.0	0.9	0.3	0.1	0.0	1.70	0.90
	小計	7,430	50.8	30.0	13.3	4.2	1.2	0.4	0.1	0.0	1.77	0.98
女性	65-69	154	50.6	39.6	6.5	1.3	1.3	0.6	0.0	0.0	1.65	0.85
	70-74	1,867	51.1	30.9	12.8	3.6	1.3	0.3	0.1	0.0	1.74	0.95
	75-79	4,234	47.9	33.0	13.7	3.8	1.2	0.3	0.1	0.0	1.79	0.96
	80-84	3,293	51.4	31.8	12.4	3.6	0.5	0.1	0.1	0.0	1.71	0.89
	85≤	3,382	61.4	27.7	8.2	2.2	0.5	0.1	0.0	0.0	1.53	0.79
	小計	12,930	52.8	31.1	11.7	3.3	0.9	0.2	0.1	0.0	1.69	0.90
総数	65-69	340	52.1	36.5	7.6	2.6	0.6	0.6	0.0	0.0	1.65	0.85
	70-74	3,242	51.4	31.1	12.3	3.7	1.0	0.4	0.1	0.0	1.73	0.94
	75-79	7,102	48.9	31.2	14.1	4.0	1.3	0.4	0.1	0.0	1.79	0.98
	80-84	5,105	50.6	31.0	12.8	4.2	1.0	0.2	0.1	0.0	1.75	0.95
	85≤	4,571	59.0	28.7	9.1	2.4	0.6	0.1	0.0	0.0	1.57	0.82
	小計	20,360	52.1	30.7	12.3	3.6	1.0	0.3	0.1	0.0	1.72	0.93

#### 4. 結語

本稿は、島根県松江市の国民健康保険加入者のうち、特定月（2005年9月）の入院・入院外サービス受療者を対象に、全傷病登録によるレセプトデータならびに介護保険データを用い、①患者特性（性、年齢階級、要介護度）別にみた傷病分類別該当状況 ②患者特性と傷病保有数の関係 などの解析を通じて、高齢者の疾病構造を明らかにすることを目的としたものである。

今回の分析により、

- (1) 傷病保有率をICD-10大分類ベースで見ると、第1位「循環器系疾患」(53.0%)、第2位「筋骨格系疾患」(22.7%)、第3位「眼疾患」19.9%、第4位「代謝疾患」16.4%の順であった。ここで、性差をみると、男性では「尿路性器系疾患」「新生物」「呼吸器疾患」などが、女性では「筋骨格系疾患」などが相対的に多かった。
- (2) 性別傷病保有率を中分類ベースで見ると、男性では、第1位「高血圧性疾患」(23.6%)、第2位「脳梗塞」(11.4%)、第3位「虚血性心疾患」(10.8%)、第4位「糖尿病」(10.5%)、第5位「その他眼の疾患」(8.2%)、女性では、第1位「高血圧性疾患」(29.6%)、第2位「白内障」(9.3%)、第3位「その他分泌・代謝疾患」(9.2%)、第4位「その他眼の疾患」(9.2%)、第5位「脳梗塞」(9.0%)であった。
- (3) 傷病保有率の性差を中分類ベースで見ると、男性では「循環器疾患」が上位3位を占めたのに対し、女性では、「その他分泌・代謝疾患」や「関節症」が上位にあった。
- (4) 年齢階級別傷病保有率を中分類ベースで見ると、「高血圧性疾患」は70歳以上の全年齢階級で第1位、「糖尿病」は65-69歳で1位、70-74歳で2位と前期高齢者で高位にあり、「脳梗塞」「虚血性心疾患」は80歳以上で2位、3位にあった。「白内障」「その他眼の疾患」は70歳以上のいずれの年齢階級でも上位にあった。
- (5) 要介護度別傷病保有率を中分類ベースで見ると、「高血圧性疾患」は非該当～要支援では、男女とも保有率1位であるが、要介護度が重度になる程減少するのに対し、「脳梗塞」は要介護度が重度になる程増加していた。「白内障」「関節症」は非該当～要介護1の軽度要介護者で上位にあり、「血管性認知症」は要介護2～5の重度要介護者で上位にあった。
- (6) 平均傷病保有数を中分類ベースで見ると、性別では、男性1.77、女性1.69と、男性のほうがやや多かった。年齢階級別では、「65-69歳」1.65、「70-74歳」1.73、「75-79歳」1.79、「80-84歳」1.75、「85歳以上」1.57と、「75-79歳」をピークに年齢とともに減少する傾向にあり、また、要介護度別では、「非該当」1.74、「要支援」1.89、「要介護1」1.79、「要介護2」1.57、「要介護3」1.55、「要介護4」1.46、「要介護5」1.39と、「要支援」をピークに要介護度が重度になる程減少する傾向にあった。

などがわかった。

非該当高齢者や要支援者を対象とした介護予防では、運動器の機能向上や閉じこもり予防・支援など、「日常の活動性を如何に確保するか」が重要なテーマとなっている。

今回の分析から、これら対象者で現在医療機関に通院ないし入院している者において、高血圧性疾患や眼疾患、関節症などの筋骨格系疾患を有している割合が多いことがわかった。

「安全性」と「活動性」は、ある意味トレードオフの関係にある。

これら日常の活動性に影響を及ぼす傷病を有しながら、如何に安全な形で活動性の確保を図るか、それに対しどのような形で医療関係者は指導・助言を行うのかが今後の重要な課題と考えられた。

## 参考文献

---

- 1) 国立社会保障・人口問題研究所：「日本の将来推計人口（2002年1月推計）」，2002.
- 2) 厚生労働省老健局：「地域包括支援センター業務マニュアル（平成17年12月19日）」，2005.
- 3) 川越雅弘：「介護予防効果評価システムの開発」，総合リハビリテーション，34(11)，1027-1033，2006.
- 4) 鈴木寿則，坪井吉孝他：「レセプト全傷病登録による糖尿病の合併症の医療費解析」，日本公衆衛生学会誌，52(7)，652-664，2005.
- 5) 吉田裕人，藤原佳典他：「介護予防の経済評価に向けたデータベース作成－高齢者の自立度別の医療・介護給付費」，厚生指標，51(5)，1-8，2004.
- 6) 須藤英一，折茂肇：「高齢者の診療」，厚生指標，40(13)，32-39，1993.

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）

「介護予防の効果評価とその実効性を高めるための地域包括ケアシステムの  
在り方に関する実証研究」  
分担研究報告書

#### 1-2-4. 高齢者のうつ状態の現状と介護予防における対策の方向性 ～事例調査を踏まえて～

分担研究者 金子能宏 国立社会保障・人口問題研究所部長

高齢者のうつ状態が強くなると、健康管理や日常生活が消極的になり、健康状態への影響を通じて要支援・要介護状態に影響することと、対人関係が消極的になり介護予防や介護サービスを担う人々との関係の維持が困難になることの両面から、介護予防において、高齢者のうつ状態に対応することが必要となる。この研究では、高齢者のうつ状態に関する全国的な統計はないのが現状であることを鑑み、『患者調査』の気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）の年齢階級別受診率に着目して、高齢者の受診行動からうつ状態を推察した。『患者調査』の気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）の受診率によれば、平成11年以降、平成17年にかけて入院受診率は増加していないのに対して、外来受診率は上昇した。また、外来受診率は65歳以上から79歳にかけて上昇し、さらに加齢すると受診率が低下する。このような高齢者の気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）の外来受診率と居宅介護サービス件数（『介護給付費実態調査』による）との関連性を、要介護度別に散布図に基づいて見ると、東京・神奈川・大阪という大都市部を除く場合、要介護度5と要介護度4の居宅サービスでは、うつを含む気分〔感情〕障害の外来受診率が高いほど居宅サービス介護件数が少ない傾向が見られる。このことは、この外来受診率が低い地域でもその受診率を引き上げることによって、要介護度の進行の予防やより重い要介護度の介護件数の増加抑制ができることを示唆している。

このような可能性を実現するためには、高齢者がうつ状態に気づくことと必要な治療を受けることが必要であり、うつ状態の1次予防と2次予防の連携が必要となる。この点に関する実情と課題について、青森県田子町の事例を取り上げ考察した。田子町の1次予防では、うつに関する知識の普及啓蒙のみならず、介護関係者による見守りや高齢者同士の集まりや傾聴ボランティアなど多角的な取り組みが行われ、高齢者の「うつ」に対する知識普及に効果をあげている。ただし、1次予防としての集まりやボランティアとの交流の場に高齢者が移動する手段の確保が課題となっている。また、1次予防には地域差が生じ、1次予防の効果が小さい地域から2次予防の取り組みを始めている。このような形で、田子町では1次予防と2次予防の連携を図り、介護予防と関連するうつ対策を推進している。

## A. 研究目的

高齢者のうつ状態に関する全国的統計が無いことから、『患者調査』の気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）の受診率からうつ状態の動向を推察し、この調査の外来受診率と『介護給付費実態調査』の居宅介護サービス件数との関連性を見ることにより、介護予防におけるうつ対策の効果をみる。そして、介護予防におけるうつ対策の実情と課題を、青森県田子町の事例に基づいて考察する。

## B. 研究方法

『患者調査』（平成 17 年）の気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）の受診率からうつ状態の時系列的変化と年齢階級別特徴を把握し、この調査の外来受診率と『介護給付費実態調査』（平成 17 年度）の居宅介護サービス件数の 65 歳以上・都道府県別データを作成して、両者の関連性を考察する。そして、介護予防におけるうつ対策の実情と課題を、青森県田子町の事例に基づいて考察する。

（倫理面への配慮）

本研究は、厚生労働省『患者調査』『介護給付費実態調査』の公表データを用いたものであり、個票データを用いた分析ではない。また、田子町の事例調査でも、データについては田子町健康福祉課による公表統計「田子町心の健康に関する調査」に基づ

いている。そのため、個人情報保護等における倫理面での問題は発生しなかった。

## C. 研究結果

①『患者調査』の気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）の受診率によれば、平成 11 年以降、平成 17 年にかけて入院受診率は増加していないのに対して、外来受診率は上昇した。また、外来受診率は 65 歳以上から 79 歳にかけて上昇し、さらに加齢すると受診率が低下する。②要介護度 5 と要介護度 4 の居宅サービスでは、高齢者のうつを含む気分〔感情〕障害の外来受診率が高いほどと居宅サービス介護件数『介護給付費実態調査』による）が少ない傾向が見られる。③田子町の 1 次予防では、うつに関する知識の普及啓蒙のみならず、介護関係者による見守りや高齢者同士の集まりや傾聴ボランティアなど多角的な取り組みが行われ、高齢者の「うつ」に対する知識普及に効果をあげている。④ただし、1 次予防としての集まりやボランティアとの交流の場に高齢者が移動する手段の確保が課題となっている。

## D. 考察および E. 結論

気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）の受診率と要介護度別居宅サービス件数との関係を見ることにより、うつを含む気分〔感情〕障害の外来受診率が高いほど、要介護度

の進行に抑制的な様々な影響（本人の健康管理の意識の維持・向上、介護サービス提供者との人間関係維持によるサービスの適切な需要）が働き、重い要介護度の介護件数を少なくする影響を見ることができた。ただし、今回の分析は『患者調査』（平成17年）と『介護給付費実態調査』（平成17年度）の都道府県別のデータに基づく横断面分析である点に留意する必要がある。今後の課題として、これら二つの調査の複数時点のプールされた横断面データ（パネルデータ）を作成して分析する必要がある。田子町の事例調査では、うつ対策の1次予防では、高齢者の移動手段の確保が課題となることが明らかとなったが、これは外出行動の介護予防とも関連する。介護予防におけるうつ対策をより有効にするためには、介護予防の多様な領域と関連づけたうつ対策の方向性を検討することが必要である。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1.論文発表

なし

##### 2.学会発表

なし

#### H. 知的所有権の取得状況の出願・登録状況

##### 1.特許取得

なし

##### 2.実用新案登録

なし

##### 3.その他

なし



## 第1章 第二節 高齢者の生活機能歴の説明因子

### 研究報告4. 高齢者のうつ状態の現状と介護予防における対策の方向性 ～事例調査を踏まえて～

金子能宏 (国立社会保障・人口問題研究所)

#### 1. はじめに

介護予防において高齢者のうつ状態（あるいはうつ病）に着目することの必要性には、高齢者の身体的な健康状態の推移と、介護予防・介護サービスにおける対人関係という二つの側面がある。すなわち、第1に、うつ状態が強くなると、健康管理や日常生活に消極的になり、身体の状態に影響するため要支援や要介護の状態に移行する場合や要介護度が進行する場合がある。第2に、うつ状態（あるいはうつ病）にあると、対人関係も消極的になり、介護予防や介護サービスを担う人々との関係の維持が困難になるとともに、適切な対応・（精神的）介入がなされない場合にはうつ状態が進行するという複合的な問題が生じる。

ここで、うつ状態は、「気分がひどく落ち込んだり何事にも興味を持てなくなったりして強い苦痛を感じ、日常生活に支障が現れるまでになった状態」を意味する。こうしたうつ状態は、日常的な軽度の落ち込みから重篤なもの（うつ病）まで連続線上にあるものとしてとらえられている<sup>1</sup>。このようなとらえ方は、ドイツ学派による器質性うつ、神経症性うつ、内因性うつの分類では、多くが内因性うつに分類されてしまうことの反省に立ち、現在はDSM-IV（精神疾患診断と統計の基準、第4版）分類に基づいて広く用いられるようになった<sup>2</sup>。これにより、うつ状態が重篤化した「大うつ病」、そこに至る病状の「うつ病」、およびその他という分け方が一般的となっている。

うつ状態（うつ病）の基本的な症状は、抑うつ気分（強い抑うつ気分）、興味や喜びの喪失、食欲の障害、睡眠の障害、精神運動の障害（制止または焦燥）、疲れやすさ、気力の減退、強い罪責感、思考力や集中力の低下、死への思い（自殺念慮）である。この他に、身体の不特定愁訴を訴える場合も多く、被害妄想などの精神病症状が認められることもある（厚生労働省地域におけるうつ対策検討会作成の保健医療従事者マニュアル参照）。

介護予防の観点から見ると、こうした症状をもつうつ状態のうち内因性とされてきたものの中には、MRI（磁気共鳴画像法）で調べると、無症候性脳梗塞に基づくとされるうつ状態（MRI-derived depression）がかなり多いと報告されている。そのため、要介護状態の要因ともなる脳血管障害とうつ状態との関連性もあり<sup>3</sup>、介護予防におけるうつ状態への対応は重要な課題となる。

また、うつ状態は、進行するとうつ病になり、死因の第6位を占める自殺死亡の要因ともなる。日本の自殺死亡は、近年3万人の水準で推移する状態が続いているが、自殺死亡率を男女別・年齢階級別に見ると（『人口動態統計特殊報告 平成17年自殺死亡統計』）、図1と

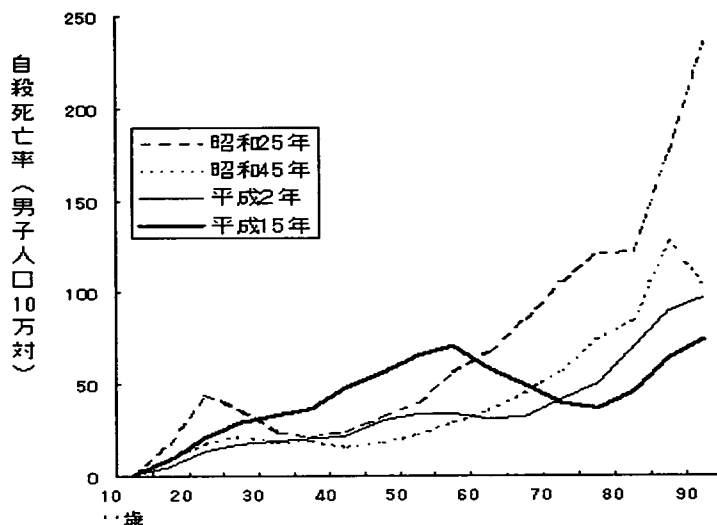
<sup>1</sup> 『うつ対策推進方策マニュアルー都道府県・市町村職員のためにー（2節）』

<sup>2</sup> 平井俊策(2006)「高齢者のうつの特集にあたって」"Depression Frontier", Vol.4, No.1.

<sup>3</sup> 平井俊策(2006) 同上

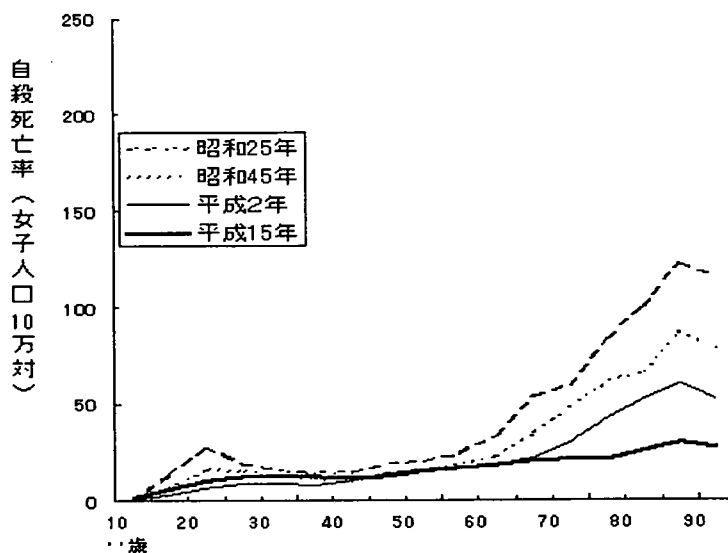
図2のように、自殺死亡率の水準は男性が女性よりも高いという性差はあるが、加齢とともに自殺死亡率が上昇する点では共通している。その結果、自殺死亡者の約1/3が60歳以上となっている（『人口動態統計特殊報告 平成17年自殺死亡統計』）。

図1 年齢階級別の自殺死亡率(男子)



出典：『人口動態統計特殊報告 平成17年自殺死亡統計』

図2 年齢階級別の自殺死亡率(女子)



出典：『人口動態統計特殊報告 平成17年自殺死亡統計』

以上のように、高齢者のうつ状態は、介護予防において着目しなければならない高齢者の心身の状態であり、これに適切に対応することは介護予防・介護サービス提供を向上させるのみならず、高齢者の自殺予防にも繋がる重要な課題であると考えられる。本稿では、このような問題意識に従って、2節で高齢者のうつ状態の現状を概観し、3節でうつ対策における1次予防と2次予防の連携を、青森県の田子町の事例調査を踏まえて考察する。

## 2. 高齢者のうつ状態の現状

### 1) 『患者調査』に基づくうつ状態の把握

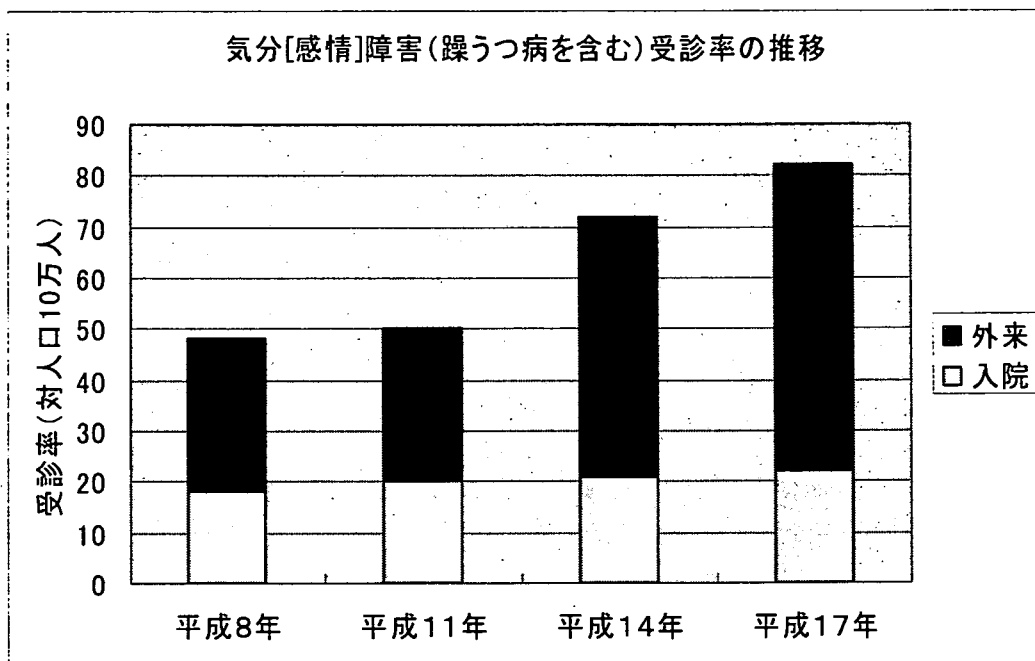
高齢者のうつ状態の現状と受療状況等を全国的に把握する統計は、存在しないのが現状である。しかし、介護予防におけるうつ状態への対応の必要性を全国レベルで見るとするためには、うつ状態が進行して現れるうつ病の受療状況を把握することは重要である。本稿では、うつ病を含む気分[感情]障害（躁うつ病を含む）の受診率の動向を、『患者調査』（厚生労働省）を用いて概観する<sup>4</sup>。『患者調査』の傷病分類別・年齢階級別の受診率については、平成8年調査以降、精神疾患の分類が「精神障害（統合失調症と神経症を再掲）」から「精神及び行動の障害（統合失調症型障害及び妄想性障害、気分[感情]障害（躁うつ病を含む）、神経症性障害、並びにストレス関連障害及び身体表現性障害を再掲）」に変更された。ここでは、気分[感情]障害（躁うつ病を含む）について、時系列の推移と都道府県別の動向を見ることにする。

気分[感情]障害（躁うつ病を含む）の受診率の時系列的推移を見ると（図3）、外来と入院を合わせた受診率（対人口10万人）は、平成11年（50）以降、上昇傾向が見られ、平成17年では82に達している。入院の受診率は平成11年の20に対して、平成17年でも22と横ばいで推移しているのに対して、外来の受診率は平成11年の30から平成17年の60へと倍増している。

次に、外来の受診率について、男女別・年齢階級別に気分[感情]障害（躁うつ病を含む）の受診率を比較してみると、女性の外来受診率の方が男性のそれよりも高いものの、男女ともに、65歳以上から79歳にかけて受診率が上昇し、さらに加齢すると受診率が低下する傾向が見られる点では共通している。なお、精神および行動の障害による外来受診率は、加齢とともに上昇する傾向があるのに対して、気分[感情]障害（躁うつ病を含む）の受診率は80歳以上で低下する点は、気分[感情]障害とその他の精神疾患・行動の障害との間に加齢の影響が異なることを示している。とくに、うつ状態ひいてはうつ病による外来受診率が65歳以上から79歳にかけて上昇することは、介護予防を主に必要とする年齢層で、うつ状態を自覚し外来受診する場合や、うつ状態のスクリーニングにより受診を進められて外来受診することに高齢者が十分対応できる可能性を示しており、介護予防におけるうつ状態の1次予防と2次予防の連携の重要性が理解できる。

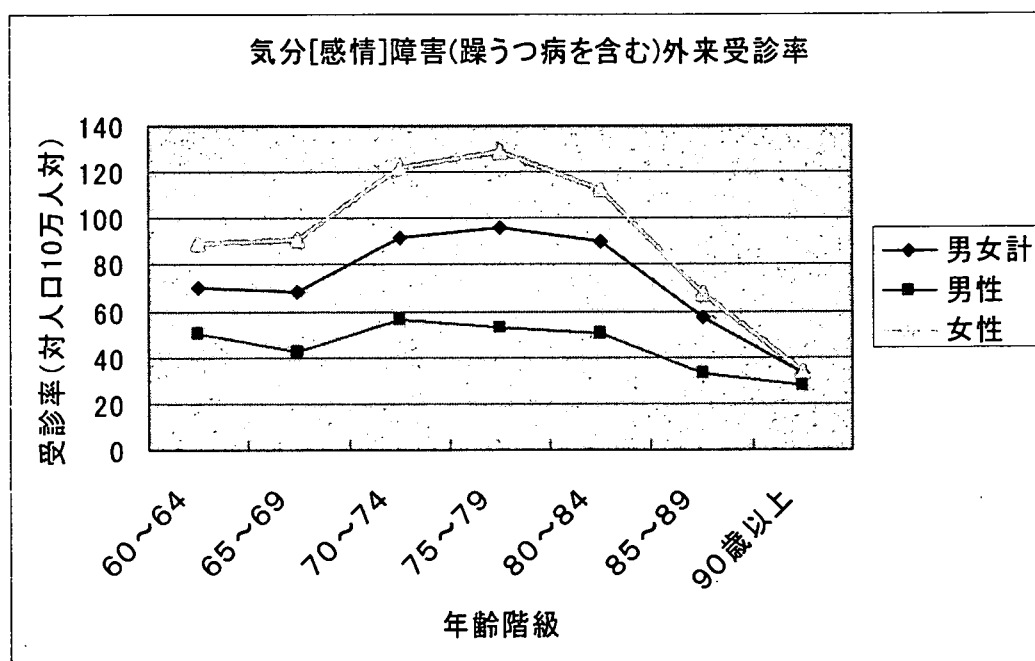
<sup>4</sup> 精神疾患の受療状況については、『患者調査』のほかに、国民健康保険被保険者を対象とする場合、都道府県別には『国民健康保険受療状況』（都道府県国保連合会）「精神疾患」を、また市町村別には各市町村の『国民健康保険受療状況』「精神疾患」を参照することができる。この点は今後の課題としたい。

図3 気分[感情]障害(躁うつ病を含む)の受診率の時系列的推移



出典：『患者調査』（平成8年、平成11年、平成14年、平成17年）より筆者作成

図4 男女別・年齢階級別にみた気分[感情]障害(躁うつ病を含む)の受診率



出典：『患者調査』（平成17年）より筆者作成